

新宮山彦ぐるーぷ第2205回

持経宿・平治宿の巡回整備

◇実施日 10月21日(金)～23日(日) 晴

◇参加者 村吉光夫(21～22日)

沖崎吉信、梶野照雄(23日)

持経宿・平治宿へは7月31日に13名で訪れて以来、2ヶ月半以上のブランクがある。(村吉さんはこの間に一度訪れている)台風が無かったので登山道や小屋に心配は無かったが、白谷池郷林道の工事が始まっており、工事状況の確認や水場の点検などを行う予定で持経宿に向かった。



紅葉はまだ



池郷林道ゲート



工事箇所

午前9時丁度にはスポーツ公園駐車場を出発、池郷林道ゲートまでは20分だった。ゲートを越え登っていくが、2.5km進んだところで重機4台とダンプカー2台が置かれて、谷側の擁壁工事が行われていた。日曜日なので作業する人はいなかったが、様子を見ると、擁壁はほぼ完成しているようだった。この工事のおかげで、林道の路面に水流で掘れた溝や落石は一切なく、スムーズに走行して持経宿に到着した。



持経宿に到着

新しい標識

平治宿に到着

平治宿に運ぶ物はないので軽いザックだけを担いで出発、中又尾根分岐で休憩した。途中で北上してきた登山者と出会う。行仙岳から持経宿をピストンするようだ。登山道の状態を尋ねると、新たな倒木は無く奥駈道にも異常は無かったようだ。

中又尾根分岐の標識が新しいものに交換されている。村吉さんが交換されたらしい。交換した古い標識が東側に置かれていたので、薪材にと平治宿まで持って行った。

平治宿に到着、小屋内に小さな薪置き場が作られていた。これも村吉さんが運んだようだ。屋外の薪が持ち込まれて整然と積み重ねられていた。トイレの桶に溜まった枯葉や紙を掃除する。手動水洗用のドラム缶は四分の一くらいしか水が無く、小屋東の雨水槽からバケツで水を運び、便器から流して桶をきれいにした。



水場の様子

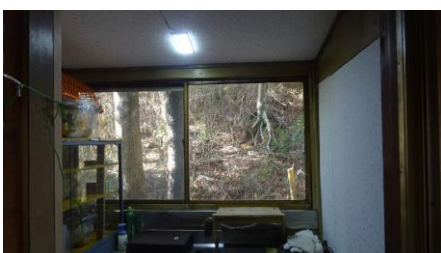
底浚え

沢蟹発見

小屋内の整理をしている沖崎さんを残して水場へ降りる。新設した迂回路は大変歩きやすい。ガレ場の沢を下っていた時よりずいぶん安心して降りることが出来る。

水場の貯水槽はグレーチング蓋の上に大量の小石と枯葉が積み重なっていた。流れは少なく、1週間雨が降らなければ涸れてしまうだろう。積もっている小石と枯葉を取り除いて、貯水槽の底浚えをする。貯水槽内は砂と泥、枯葉が5cmほど堆積していた。鍋で掻き出してみると砂の中に何か動くものがある。3cm位の沢蟹だった。ミミズは何回も見したが、蟹は初めてだった。

午前11時40分、平治宿小屋に戻ってすぐに持経宿に向かった。来るときに開けておいた千年松のお堂の扉を閉めて持経宿に到着。お天気もいいので小屋前のテーブルで昼食を摂る。南下する登山者が一名通過、休んでいきませんか？と声を掛けたが、急いでいるので行ってしまった。もう少し余裕を持った山行をした方がいい。食後、午後1時半に沖崎さんが先に下山する。



車用のLED照明

60分のタイマー

点灯

用意してきたLED照明を流し場に取り付ける。配線は以前の物をほとんど利用したが、ソーラー発電のコントロール部が狭く、線を取り付けに苦労した。流し場の照明には60分のタイマーを入れたので、消し忘れても自動的に消灯する。更衣室（イビキ隔離部屋）にも照明を付けるため、電源のコードを引き入れて工事を終えた。念のため電圧をチェックしてみた。小屋の照明を点灯すると13.6Vあった電圧が10.8Vまで下がる。バッテリーが寿命なのか充電が不完全なのかは不明だ。



林道の標識



取水口を掃除



よく流れている



林道は少し荒れている



持経宿を離れる



石や塔

荷物を車に運び、歩いて水場に向かう。水場へ向かう林道に新しい標識が立てられていた。路面は一部水流で出来た溝があり、また落ち葉が積もっている箇所も多く、車で向かう場合は慎重に進まな

ればならない。

水場の水流はかなり少なくなっているが、取水口を掃除するとホースの先からは蛇口を開けた時のように水がよく流れるようになった。小屋に戻って戸締りを確認して下山した。
(記：梶野)

行動タイム

スポーツ公園駐車場 09:00 → 09:20 池郷林道ゲート → 09:42 持経宿 ↓ 10:30 中又尾根分岐 ↓ 10:55 平治宿 11:45 ↓ 12:00 中又尾根分岐 ↓ 12:30 持経宿 15:10 → 15:32 池郷林道ゲート ↓ 16:00 池原